

◎サポーターほっとニュース

「サポーターほっとニュース」では、障がいに関する制度や研修会開催、ボランティア募集など、日ごろの活動に役立てていただくための様々な情報をご紹介します。

第31回は、8月に行われた障がい者サポーター研修会をレポートします。

【第31回】「見えない世界を体験しよう」障がい者サポーター研修会レポート

平成29年8月26日（土）に障がい者サポーター研修会を開催しました。第1部は「見えない世界を体験しよう」と題して、熊本県視覚障がい者福祉協会から茂村さんと東さんにお越しいただき、講演と誘導の体験学習のご指導をいただきました。

【講演】「視覚障がい者の理解と支援」 講師：茂村 広さん

茂村さんは全盲の視覚障がい者で、まずはご自身の経験も交え、初めて行く場所では必ず迷ってしまうこと、点字ブロック上を歩行中に駐車してあったトラックにぶつかって怪我をしたことがあり、点字ブロックの上に看板や物を置いたり、自転車や車を停めないで欲しいことなど、様々な困り事と必要な配慮を紹介されました。

視覚障がいには様々な種類、程度があります。

- ・全盲の方 ・暗いところでは見えない方
- ・明るい所ではまぶしくて見えない方
- ・視野が狭い方

＜中心だけ見える＞ 周囲の状況がわかりにくく、物にぶつかりやすい。

スマートフォンなどを見ていて、見えていると誤解される。

＜中心以外は見える＞周囲はある程度見えるので歩けるが、字などが読めない など

また、視覚障がい者のための様々なツールもご紹介いただきました。点字は全ての人を読めるわけではないので、音声により情報を得る方が多いそうです。

- ・パソコンの読み上げソフト
- ・録音図書（音声で読む本。小説、雑誌等。点字図書館で作成。全国のボランティアが朗読したものをダウンロード可能）
- ・スマートフォンの音声ガイダンス（アプリケーションなどの情報を音声で伝える。



▲指で触れて時刻を知る時計を紹介

ほとんどのスマートフォンには標準装備。地図アプリのナビ機能の利用 など）

- ・書類を写真で撮ると文字を読み上げてくれるソフト
- ・超音波ソナー（障害物に反応して振動する。震災後、トラックや足場などが路上に増え、歩行環境が悪化したため助けになっている。） など

茂村さんは講演の最後に、「視覚障がい者だからといって常に支援されるべき存在ではない。困っているから助けるという気持ちでサポートをお願いしたい。視覚障がい者の

私も、困っているおじいさんがいたら助ける。自分にできることを人にされると残念に感じる人もいる。まずは「手伝いましょうか？」という声かけなどのコミュニケーションが大事である」ことを伝えられました。

【実演・体験】「視覚障がい者への対応～基本的な誘導の仕方～」 講師：東 和孝さん

東さんは県内唯一の歩行訓練士としてご活躍されています。参加者の皆さんもアイマスクを着用して、基本的な誘導方法を学びました。

＜誘導の際、してはいけないこと＞

- × 後ろから急に声をかける
- × 手を引っばる、白杖を引っばる
- × 後ろから押す、かかえこむ

＜誘導の基本＞

- ・前方から声かけを。「〇〇と言います」
「何かお手伝いしましょうか」
- ・「失礼します」と声をかけ、手をとって自分のひじの少し上をにぎらせる。
- ・半歩前に立つ。つま先の向き（進行方向）を指示し、一緒に歩き出す。



▲狭い通路での誘導方法を実演

上記が基本ですが、「安全に誘導できれば、気軽に声をかけて手伝いをお願いしたい。また、駅のホームでの転落事故が多発している。危険だと思ったらすぐに声かけ、お手伝いをお願いしたい。」と伝えられました。

参加者の皆さんからは、今回、誘導の体験ができたので、自信を持ってお手伝いができそうとの声が聞かれました。

Topics つくる・つながる・ひろがる おとなりマルシェ

障がいのある方が作った素敵な商品の販売会です。

食品から雑貨まで、思わず手にとりたくなる商品をたくさんご用意しています。

9月・10月の開催予定

◆日時：9月8日（金）・10月13日（金） 10時～17時

◆場所：びふれす広場（中央区上通町2番）

※詳しくは熊本市ホームページ等をご覧ください。



＜問い合わせ＞障がい保健福祉課 電話 096-328-2519 FAX：096-325-2358